



ウトナイの子

【教育目標】 夢をいだき 未来を拓くたくましい ウトナイの子の育成

令和2年10月30日

第7号

Tel 57-6700

Fax 57-6715

一読三嘆 ～家読（うちどく）の進め～

校長 丹野 靖彦

コロナウイルスへの感染が縮小せず、北海道でも警戒ステージをレベル2としました。学校としましては、消毒、手洗い、換気を徹底し感染予防をしつつ、教育活動を進めて参ります。ご家庭でも、毎日の検温、手洗い、うがいなどの対応をお願い致します。

こうした状況下では、多くの体験をすることは難しいことと思います。そうした今だからこそ、家族で読書をしていただきたいと思います。読書が学力向上と密接に関連があるからだけではありません。読書には、いくつかの効果があるとされています。いくつかご紹介します。

1 読解力を上げる

- ・読書を重ねることで読解力も高まります。AIなどの情報処理機器の発達においても、読解力は人間が優位にある一つの力だと言われています。読解力の高まりは、未知なる課題を解決する力にもつながるともいわれています。

2 知識が増える

- ・読書では、多くの新しい考え方や、先人が積み重ねてきた有効な知見を知ることができ、学習や生活に生きる知識が増えます。ネット検索だけでは、知識は積み重ならないともいわれています。

3 心を穏やかにしてくれる

- ・様々な物語をじっくりと読むことで、日常から少し離れてイライラしたり不安だったりすることを解消できることもあります。読書は人を落ち着かせます。

4 自分を見つめ直すことができる

- ・自分以外の考え方や物の見方を知るということを通して、改めて自分の考え方を意識したり、見直したりすることができます。

5 新しいアイデアが生まれる

- ・自分の関心のある本を読むことにより、自分だけでは思いつかなかったことに気がついたり、自分の考えに他人の考えを合わせたりすることで新しい考えが生まれることもあります。

6 人との関わり方を学ぶことができる。

- ・物語などの世界をすることで、たくさんの生き方や考え方を知ることができ、多様な物の見方を持って友だちと接することができるようになるきっかけになります。

このほかにも、読書にはたくさんの効果があります。子どもたちの周りには、多様なメディアがあり、処理しきれないほどの情報があふれています。読書も情報の一つではありますが、そうした映像メディアにはない良さもあります。是非家族で、「家読（うちどく）」をしてみてください。タイトルの一読三嘆は素晴らしい文や書籍を読み、心の底から感動することを表す言葉です。ぜひ、家族で読書をしてお互いの感動を共有してみてください。同じ時間に同じ場所で親子が本を読み、その感想を語り合うことを通して、子どもたちの言葉環境が広がりよりよい成長につながると思います。